

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡA(SeminarⅡA)	授業コード	E002409
担当教員名	本村 裕之		
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	本ゼミナールは、経済の情報を理解し、それを扱う道具としてのコンピュータを、日用の文房具である紙や鉛筆と同レベルで使いこなして、経済を表現していくことを目標としているゼミナールです。		
受講心得	授業の中では、コンピュータの性質上、数学と英語が出てきます。苦手意識をもっている人も多いとは思いますが、実際にやってみるとそれほど高い壁ではないことも多いものです。さらに授業ではその原因となっているかもしれないコンピュータが、学習の手助けをしてくれます。大事なのは、論理的な思考を行うことです。物事を冷静な目で見る精神を養ってください。		
教科書	井上裕著「まちづくりの経済学」、学芸出版会、2001 藤田昌久著「都市空間の経済学」、東洋経済新報社、1991		
参考文献及び指定図書			
関連科目	プログラミング入門、プログラミング言語、データ解析A、データ解析B、情報システム論、システム分析論、経済統計		

授業の目的	経済の分野としては、都市経済学という、都市の形成や成長、そこに関わる消費者の行動モデルを、経済的な統計データを用いて分析・表現していく分野を扱います。
授業の概要	ゼミでは、ワードやエクセル、より高度な技能を考えている人は基本情報処理技術者、オラクル、JAVAといった資格取得を睨みつつ、現実に経済的・社会的なデータを得ることの難しさや、その手順、価値といったことを、フィールドワークを通じて、理解し表現していくことを目標とする。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 履修指導・インタビュー	
第2週： 各自の関心について意識の共有	
第3週： 進路調査・取組・登録	
第4週： 数学的知識1	
第5週： 数学的知識2	
第6週： 数学的知識3	
第7週： 数学的知識4	
第8週： コンピュータ概観1	

第9週： コンピュータ概観2		
第10週： コンピュータ概観3		
第11週： 卒論テーマ討論1		
第12週： 卒論テーマ討論2		
第13週： 卒論テーマ討論3		
第14週： インタビュー2		
第15週： インタビュー3		
第16週：期末試験 期末試験は実施しない		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	さまざまな意欲・意識を持った他者と問題の共有を行うことで自身の一般化を図る
【知識・理解】	社会学を学ぶ上で最低限必要な数学的知識・マーケティングの知識を身に着ける
【技能・表現・コミュニケーション】	調査を実際に行うことで調査者として必要な技能を身に着ける
【思考・判断・創造】	客観的に問題を見つめることで鳥瞰的なオブジェクトシンキングを身に着ける

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。				
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	